

# 【バードライフ・インターナショナル】 100年かけて熱帯雨林を守る



地球上で最も多くの動植物が見られるのが熱帯雨林です。しかし森林は木材利用のための伐採や、農地開発、アブラヤシの農園建設のため開発され、毎年1500万ヘクタールの森が減少しています。これは北海道、九州、四国を合わせた規模になります。

森がなくなると木材資源だけではなく、医薬品の原材料となる遺伝資源の調達にも影響が生じます。また木は二酸化炭素を吸収し、地球温暖化の緩和にも大きく貢献しています。

地球の生態系や生き物を守る大切な森林。その保全には植林活動も必要ですが、それよりも、今ある熱帯雨林がこれ以上開発されないように守ることが重要です。バードライフは世界中で生物多様性の高い熱帯林を選び、50年から100年と長期間かけて豊かな森を回復させ、守る「Forests of Hope」という活動をしています。

インドネシアのスマトラ島では10万ヘクタールと、東京都の23区に相当す

る大規模な森林保全活動を進めています。もともとは伐採する予定の森でしたが、インドネシア政府に法律の改正を訴え、生態系を復元する森としました。この森にはスマトラ島で見られる鳥の48.8%が生息し、スマトラトラ、ゾウなど絶滅の危機に瀕した哺乳類が多数みられます。ここではゴムやハチミツの採集など、地域の人々の暮らしを向上させることも重視しています。人も動物も地球の仲間。森の資源を上手に使いながら共存する「Forests of Hope」はフィリピン、マレーシアなど他のアジア諸国にも広がりを見せています。



スマトラトラ ©Dave Watts

## バードライフ・インターナショナル

イギリス ケンブリッジに本部を持つ国際環境NGO。  
世界120か国のパートナー団体と約280万人のメンバーとともに、  
鳥類を指標にして環境保全に取り組む。  
高円宮妃久子殿下が名誉総裁を務める。